CLOSE UP!

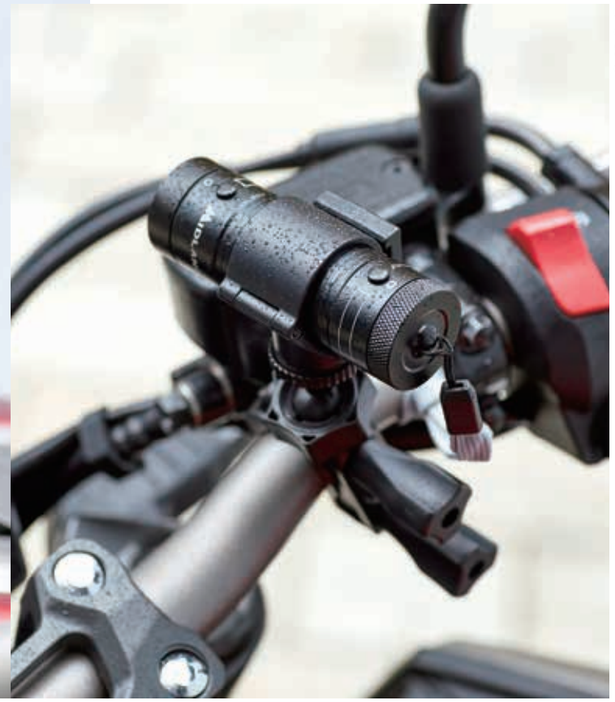
アクションカメラモードも選べる二刀流ドライブレコーダー

MIDLAND XTC-290

価格●1万4580円

[DATA]
サイズ／重量〈実測値〉●φ30×88（各㎜ ※突起部分を除く）／72g　防塵・防水性能●IP65相当　録画サイズ●Full HD 1080P、HD 720P　フレームレート●1080P：27.5fps、720P：55fps（LED信号対応）　撮影素子●200万画素（SONY IMX 323レンズsenser）　画角●120度（水平）　録画ファイル形式●mov　録画ファイル構成●1ファイル 5分　記録媒体●microSD（8GB～128GB・class10）　内蔵バッテリー容量●680mAh（録画時間：最大2時間）

●汎用性が高いハンドル取付マウントにはボールジョイントが備わるため、進行方向の撮影だけでなく走行中の自撮りもできる。なお、このマウントは直径17㎜～32㎜のハンドルに対応可能だ



●リヤカバーには脱落防止のためのストラップを装備。カメラ本体はIP65の防水性を持つため、多少の雨なら問題なく使い続けられる

別売の防水ケースを使えば水深25mまでOKに！

●水深25mまで対応する本格的な防水ケース（2700円）をオプションで用意。マリンレジャーで使えば水中映像を楽しむこともできる

USBポートから常時充電可能

●リヤカバーを外して防水USB充電ケーブルを取り付けることで車載USBポートなどから給電でき、録画しながらバッテリーへの充電が可能になる

便利な3種類のマウントが同梱！

●様々な場所に取り付けられるよう、ハンドル取付マウントと両面テープマウント、マジックテープマウントの3つが付属する

●ライダーの腕などに巻き付けて使うマジックテープマウント。バッテリー内蔵式だからできる個性的な撮影アングルを試したい

●平面と曲面の2つの貼り付け部が用意される両面テープマウントを使えば、ヘルメットや燃料タンクなどにも取り付けられる

カチッとした画像が特徴

●2台分くらい前を走る車両のナンバーがしっかりと判読できる、シャープネスの高いフルHD動画が特徴。120度の水平画角によりアクションカメラ並みの広角撮影が可能だ

事故などの証拠映像が残せるドライブレコーダーは、いつアクシデントが発生するか分からないので走行中は常に録画し続けなければならない。そのため、イグニッションオンに連動して録画が始まる自動録画機能や、記録メディアの容量が一杯になったら古いファイルを自動で上書きし撮影を続けるループ録画機能が必須となる。一方、ツーリング動画を仲間と共有したり、SNSなどにアップして多くの人に見てもらうには、マウントの変更で様々な場所に取り付けられるアクションカメラがあると便利。

そんな、ドライブレコーダーとアクションカメラの機能を併せ持つのが、ミッドランドのXTC-290だ。高い質感を持つ円筒形のアルミ合金製ボディの中には、200万画素のソニー製CMOSセンサーと最大2時間の録画ができる680mAhのリチウムバッテリーを搭載しているので、旅先での散策時などに持ち出すことも可能。ドライブレコーダーとして使用するときはバッテリー切れが心配になるが、付属する防水仕様のUSB充電ケーブルにより車載USB端子や汎用モバイルバッテリーから給電できるので安心だ。

記録画質は、解像度が1920×1080ピクセルのフルHD画質と、1280×720ピクセルのHD画質のふたつから選べる。アクションカメラモードなら記録媒体であるマイクロSDカードの容量いっぱいまで撮影し続けるので、32GBのカードはフルHD画質で4時間半以上、対応する最大容量である128GBカードなら18時間以上の録画が可能だ。なお、録画ファイルを保護するため、どのモードでも1ファイルは5分ごとに分割して記録される。

3タイプのマウントが付属するのも見逃せないポイントだ。一般的なハンドル取付マウントや両面テープで貼り付けるマウントの他、面ファスナーベルトによりライダーの腕などに取り付けるタイプも用意される。

シンプルな操作で誰でも簡単に撮影ができ、電源ケーブルと3つのマウントまで付属するにもかかわらず1万円台半ばという価格設定は驚きでしかない。後はマイクロSDカードを追加するだけで撮影を始められるので、「動画撮影に興味がある」、「万が一のときのためにドライブレコーダーを付けたい」というライダーにとってXTC-290は最も手軽なカメラと言えるだろう。

●リヤカバーを外すとマイクロSDカードのスロットやUSB端子が現れる。モードや画質の切り替えには設定ミスが少ない物理スイッチを採用。なお、ドライブレコーダーモードのときは、外部電源がオンになると自動的に録画が開始される

振動で「状態」をお知らせ

●電源オン・オフはボタン前方の青色LEDで、録画状態などは同後方の赤色LEDでチェックできるが、さらに電源オンで3回、オフで1回本体が振動するので、ヘルメットなど目視できない場所に取り付けたときでも確認可能だ

パワーボタン

●パワーボタンを長押しすると電源オン。アクションカメラモードの場合、起動後にこのボタンを短押しすることで録画が始まる

スクリーンショットボタン

●電源オンのときにこのスクリーンショットボタンを押せば静止画の撮影ができる。録画中でも使えるので旅の記録として活用したい